

市ラグビー協会 南郷陸上競技場で「感謝デー」

職員の手伝いを受けながら芝生の種を植える選手



レールアップに励む参加者

心込めて芝生整備

八戸

八戸市ラグビーフットボール協会(八戸栄司会長)は11月26日、同市の南郷陸上競技場で、初めての「ラグビー感謝デー」を開催した。市内4高校と八戸学院大のラグビー部に所属する選手約150人が集まり、日頃の練習や試合で使用するグラウンドに感謝の気持ちを込めて、芝生を整備。キックやラインアウトなどの技術セミナーも行われ、実践的なテクニクを身に付けた。

(大西桂介、福田駿)

選手150人集結、セミナーも

芝生整備は、指定管理者のエスプロモの職員が担当。雑草の繁茂やプレー中の選手のスパイクで芝生がめくれた場所(クレータ)に、機械を使って年2回種まきを行っている。職員の下田尋通さん(53)によると、芝生の昆虫を食べたカラスのふんの中や、最初に下田さんが芝生の種まき方法を説明。「雪が降り積もり、その中で生き抜いた種が根付き、芝生が再生する。来シーズンきれいなグラウンドでいいプレーができるよう、心を込めて整備してほしい」と呼びかけた。

選手たちは班ごとに分かれてクレータを探し、種をまいた後、砂をかぶせて佐藤壮さん(16)は「芝の育て方などを知ることができたためになった」とそれではなかったが、芝生の剥がれた場所が結構多かった。整備してくれる方々に感謝しながら、来年はきれいなグラウンドでプレーしたい」と意気込んだ。

八学大4年の今野聖夜さん(21)は「芝生の整備は楽しかった。きれいな芝生でいいスクラムを組み、上位を目指してほしい」と後輩にエールを送った。

八学光星高1年の宇部太陽さん(16)は「キックの技術など今後のプレーに生かせる内容を学ぶことができた。県立八戸西高1年の